

校報 あずまね

文責：紫波町立紫波第三中学校 校長 角谷 隆章

2024 年 5 月 30 日（木）

～伝え合い 響き合い 高め合う～

紫波町立紫波第三中学校 学校だより No.3

【 5・11 運動会大成功！！ 】

お忙しい中、ご来校いただき、ありがとうございました。紫波三中の運動会、素晴らしいですね。以下、内容はほぼ 14 日発行の保護者向け校長室だより「手を携えて」の再掲ですので、保護者の方々はご覧になったと思いますが、HP にアップした後、地域にも配布し、見ていただきますのでご理解の程よろしくお願い致します。

今年は3年生1クラスを紅白に分け、1・2年生2クラスがそれぞれ紅白に分かれての運動会。2週間前の結団式では、3年生の組団長が“新聞紙”で作った兜を身につけ、戦国武将風に勇ましく“宣戦布告”をしたかと思えば、陣地や応援合戦の順番決めは、バスケットボールのフリースロー対決。大いに盛り上がりを見せたこの演出は、担当に聞いたところ、全て生徒が企画したとのこと。この後、実質 10 日間の取組期間を経て迎えた運動会当日は、青空の下、生徒一人ひとりが笑顔いっぱい、競技に、応援に躍動する姿が印象的だった。特に、組団の創作ダンスを披露する場面では、紅から白へ、白から紅へ、自然発生的に拍手や声援を送る様子が見られたり、多少の違反やアナウンスのミスがあっても生徒同士、笑って許す寛大さが見られたり、自分たちで作り上げた運動会を自分たちで思いっきり楽しんでいる姿に私は心からの感動を覚えた。閉会式に臨む生徒は全員が凛としていて、お互いの健闘を称え合っていた。また、片付けが終わり、挨拶のため、職員室を訪れた生徒会執行部のメンバーは、「やり切った」という表情で、目にうっすらと光るものが見られる生徒もいた。

大成功の運動会。私は改めて、中学生の底知れない可能性を感じている。コロナ禍の中、運動会は規模を縮小して行うところが多くなり、第五類になった今でも、行事の精選、教職員の働き方改革等の観点から、この形が続けているところは多い。いかにしてコンパクトでインパクトのある行事にしていくのか。我々教職員に創意工夫が求められていることに間違いはないが、中学生を信じ、中学生に委ねるという視点を決して忘れてはならない。それは、中学生がやがては、人として自立するためにすこぶる大切なことであろう。そしてこの視点は、教職員のみならず、家庭で、地域で、関わるすべての大人がもちたい視点でもある。運動会を通じて、教職員はもとより、本校の生徒に関わるすべての大人が適切な関わり方をしていることがわかり、私は大きな幸せを感じている。今、学校現場では、ティーチングからコーチングへの転換が求められている。自立する中学生を育てるために、中学生の限りない可能性を信じてこれからも精進していきたい。



運動会 “青春の一コマ”

【春の“あずまねカフェ”】

5月24日（金）、1，2年生を対象とした「春のあずまねカフェ」が行われました。これは本校の「総合的な学習の時間」における「キャリア教育」の一環で、春と秋の年2回実施している取組です。

紫波地区で仕事をされている16名の方々にお越し頂き、学年ごとに数名のグループに分かれて、1グループにつき、2人の方からお話を伺いました。

生徒は、紫波町のことはもちろん、仕事や生き方について、様々なお話を聞いた後、疑問に思ったことを自ら質問してさらに考えを深めました。今後の学習でも自らの生き方について真剣に考えていくことを願います。



【生徒朝会から】

5月28日（火）の生徒朝会は、地区通信陸上の激励会もあわせて行われたため、“盛りだくさん”となりましたが、運動会の総括では、多くの生徒が発表し、生徒全員で『大成功の運動会』を振り返っていました。全校生徒が楽しめるような取組を工夫して自主的に行うことができる本校生徒会執行部。それをしっかりと受け止めて楽しめる全校生徒。紫波三中の素晴らしさを改めて実感する時間になりました。



【朝のあいさつ運動】

今年度も、その月最後の金曜日に、防犯協会の方々の取組と連動する形で、本校の生徒・保護者も参加し、朝のあいさつ運動を実施します。朝のあいさつで清々しいスタートを！どうぞよろしくお願い致します。（写真は5/24の様子）



5/20(月)岩手日報の「日報論壇」、5/26(日)岩手日報の「盛岡県北」のページに本校に関する記事等が掲載されました。もしご覧になれるのであれば、どうぞご覧ください。機会があれば、これからも紫波三中の素晴らしさをどんどん発信していきます。